

平成 27 年度第 1 回 二宮町子ども・子育て会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成 28 年 1 月 13 日（水）10 時 00 分から 12 時 10 分まで	
開催場所	二宮町役場庁舎 2 階 第 1 会議室	
出席者	委員 (9 名)	山下房江委員、山下智委員、山下貴子委員、水島一恭委員、相馬宣正委員、 和田俊宏委員、三柳弘委員、本間直美委員、井出眞理子委員
	事務局 (4 名)	諸星子育て担当部長、松本子ども育成課長、 須賀子育て支援班長、生井主査
欠席委員	なし	
傍聴者	3 名	
議 題	<p>(1) 子ども・子育て会議の運営について</p> <p>(2) 特定教育・保育施設の利用定員について</p> <p>(3) 二宮町次世代育成支援行動計画の実績について</p> <p>(4) 二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>(5) その他</p>	
配付資料	<p>会議次第</p> <p>資料 1 二宮町子ども・子育て会議条例</p> <p>資料 2 二宮町子ども・子育て会議スケジュール</p> <p>資料 3 教育・保育施設の利用定員について</p> <p>資料 4 二宮町次世代育成支援行動計画（後期計画）の実績</p> <p>資料 5 二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況</p> <p>資料 6 子ども・子育て支援給付の量の見込みと提供体制の確保</p> <p>資料 6-2 推計児童人口</p>	

議事要旨

発言者	発言要旨
1 開会	
2 あいさつ	
村田町長	<p>町ではさまざまな事業に取り組んで来ているが、27年度からは出産には至らない不育症の治療助成を始め、発達支援の専門性を強化した育児教室「おひさま教室」を実施し、10月より小児医療費助成を中学3年生まで拡大してきた。</p> <p>現在、28年度予算編成時期にきているが、厳しい財政状況の中でも、子育て世帯の応援をして、若い世代に住んでもらえるように事業を展開し、学童保育の問題にも真摯に対応していきたいと考えている。</p> <p>27年度から31年度までの二宮町子ども・子育て支援事業5カ年計画について、委員の皆様には進行管理を行っていただくことになる。この子ども・子育て支援事業計画に掲げている事業をどのように実現していくか、調査等も行った上で、ご意見を伺いたいと思っている。</p>
3 自己紹介	
事務局	<p>委員および事務局の自己紹介。</p> <p>本日の議題についての主旨説明。</p>
4 会長、副会長の選出	
事務局	<p>委員の所掌事務についての説明。</p> <p>委員の互選により、会長に井出委員、副会長に三柳委員が選任される。</p>
5 議事	
(1) 子ども・子育て会議の運営について	
会長	ご意見等あるか。
委員	なし
(2) 特定教育・保育施設の利用定員について	
委員	地域型保育は二宮にあるのか、また開所の予定はあるのか。
事務局	現在、二宮町に施設はないが、開所希望者はいる。施設の設置基準や保育士の確保について、町との協議をすることになる。
委員	町内私立幼稚園に対して、認定こども園への移行を打診しているのか。

発言者	発言要旨
事務局	<p>各私立幼稚園は、新制度の幼稚園または認定こども園へ移るか現行の幼稚園のままか選択することになる。しかしながら、新制度はまだまだ不透明な点が多いため、各私立幼稚園とも将来の見通しが立たず、判断が難しい状況にある。町でも新制度が安定するまでは移行の決断が難しいのではないかと捉えている。</p> <p>ただし、この「計法定員」については、町でも定員の枠を用意しておかないと、新制度へ移行したい園が出た場合に認可できなくなってしまう。それ故に、町では先取りした形で計画上の定員を定めておく必要がある。その後、各私立幼稚園から新制度への移行の意志が固まった場合には、すぐに対応できるようにしたいと考えている。町としても新制度の動向を上手く掴んで各私立幼稚園へ情報を流すことで、待機児童解消等の問題などに対する町の考え方と私立幼稚園の意向をマッチさせながら進めていきたいと思っている段階で、現状でどの私立幼稚園が新制度へ移行するか、申し上げる状況にないということです。</p>
委員	<p>分園について、保護者は興味があるようで、よく質問されるのだが、3歳以上になればみちる愛児園へ転園できるということか。それとも改めて3歳以上で他の園への入所申込みをしなければならないということか。</p>
事務局	<p>3歳を迎えても、その年度末までは在園できるが、その後も本園であるみちる愛児園に継続できる。</p>
委員	<p>きょうだい分園と本園に分かれての通園も有り得るということか。</p>
事務局	<p>まず、分園へ通うのか本園へ通うのかは、本人の希望による。3歳以上のお子さんが本園に入所できるのであれば、下のお子さんも本園へ入所させるのではないかとと思うので、実際にはきょうだいと同じ保育所へ通えないというケースは少ないのではないかと考えている。</p> <p>まだ構想の段階で確定ではないが、3歳以降も朝の送り時に駅前分園で預かり、本園へ送迎できないか、みちる愛児園でも検討しているところである。</p>
委員	<p>分園は駅前で立地条件が良いので、利用者の関心も高い。きょうだい別々の保育所にならないような配慮が必要に思う。</p>
委員	<p>みちる愛児園が待機児童解消として分園の開所に取り組んでいただけたことだが、以前、自分の子どもを1歳半からマンションのような建物の民間保育施設に預けたところ、保育施設が苦手になってしまった経験がある。3歳以上の子どもが本園に通い、3歳以下の子どもは分園の狭い室内だけで過ごすのは心配である。</p>

発言者	発言要旨
事務局	<p>分園は、2階に0歳のクラスと1、2歳児のクラスの2部屋を保育室として予定している。制度上、0歳から1歳は1人あたり3.3平方メートル、2歳であれば1.98平方メートルという基準が定められている。さらに少し余裕をもった中で、部屋の割り振りをしている。ご存知のとおり、分園は園庭をとれるだけのスペースがないため、室内で過ごすだけでなく、お散歩等で外に出る。具体的には勝負前公園を外遊びスペースとして利用する計画で届出をしている。</p> <p>どうしても、都心の保育園では土地不足で、駅前ビルの一室で保育をしている場合があるが、それでも近くの公園や空き地等を園庭代わりに利用することが、認可基準になっている。二宮という土地柄なので、なるべく外に出て遊ばせたいとの考えを持っていると思う。</p>
委員	<p>30年度の保育所計画定員として、350人から380人へプラス30人の計画があるが、これは需要調査の結果から推計された計画定員なのか。</p>
事務局	<p>この計画定員は、子ども・子育て支援事業計画の策定にあたって実施した「子ども・子育てに関するアンケート調査」結果を基に、推計児童人口・保育園の利用希望者数の推計値から算出した計画定員となる。</p> <p>具体的には、二宮町子ども・子育て支援事業計画冊子P62の「2子ども・子育て支援給付の量の見込みと提供体制の確保」に、3歳以上の保育で「(2)2号認定(3歳から5歳 保育の必要あり)」の量の見込みがあり、平成27年度不足定員が△36人、平成28年度不足定員が△24人、平成29年度不足定員が△2人であるが、保育所の30人規模増設によって平成30年度からプラスの23名に転じることになる。</p> <p>また、同計画冊子P63には3歳未満の保育で「(3)3号認定(0歳から2歳 保育の必要あり)」の量の見込みがあり、平成27年度不足定員が△42人、平成28年度不足定員が△28人、平成29年度不足定員が△14人であるが、保育所の30人規模増設によって平成30年度からプラスの6名に転じることになる。</p>
会長	<p>みちる愛児園分園の利用定員20人について、異論はないか。</p>
委員	<p>異論なし。</p>
<p>(3) 二宮町次世代育成支援行動計画の実績について</p>	
会長	<p>ご意見等はあるか。</p>
委員	<p>なし。</p>

発言者	発言要旨
<p>会長</p>	<p>平成 17 年度から実施されてきた次世代育支援行動計画の報告と、その中で実施できなかった 6 事業について、平成 27 年度からの新しい子ども・子育て支援事業計画でも継承したことについて、事務局により説明をしてもらった。</p> <p>次の議題（４）で、新しい計画の実施内容が説明されることとなるが、前期計画および後期計画と計画を実施してきたことから言えるように、二宮町が早くから子育て支援に関心を持ち、子ども達への子育て支援を町全体の目で推進していくことで、二宮町の子ども達を育くむ力が育まれてきたのだと感じている。</p>
<p>（４）二宮町子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p>	
<p>委員</p>	<p>膨大な計画内容となっているが、実施しなければ意味のないものとなってしまふので、是非実施して欲しい。</p> <p>その中でも、資料 5 P10 図書館事業の充実（計画書 P51）の図書館の活用について、計画では図書館の利用の促進に努めていくとあるが、「スマートフォン」の害毒について、議論を深めて欲しいと思っている。</p> <p>脳の組織が発達している時期に脳を使わないでスマートフォンを使っていると、スマートフォンは操作さえ覚えてしまえば、答えをすぐに探し出せるので、何でもスマートフォンに頼りすぎて、自分で調べようと努力しなくなる。そうすると、脳細胞がどんどん退化していくと専門家からも指摘されている。</p> <p>図書館の利用促進といっても、図書館へ行かずともスマートフォンでも容易に調べものが出来てしまうので、図書館の利用は伸びない。活字を拾って調べる時の脳細胞の活性化や脳の成長は、スマートフォンによって視覚的に答えを得た時とは比べものにならないほどの違いがある。</p> <p>ただスマートフォンの使用を禁止しようとしても、受け止めようとはしないと思うので、専門家を呼んでスマートフォンの問題についての議論を深めて欲しいと思う。それも、専門家の講演会を開催するのが目的ではなく、町民に子どもの未来のための意識を広めることを目的にして実施して欲しいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>スマートフォンの問題は、我々も大変気にしているところである。赤ちゃんを泣きやませるのに、スマートフォンを持たせてしまう。子どもの発達に悪影響を及ぼしかねないので、子ども育成課としても非常に危機感を持っている。</p> <p>これまでも、生涯学習課や PTA の主催により、青少年がスマートフォンなどによって犯罪に巻き込まれることを防止する講演会を保護者や生徒向けに開催したこともあるが、保護者よりも子どもの方がスマートフォンの扱いを良く知っているために、保護者から子どもへの指導が追いつかないという現状がある。当然スマートフォンには良い面もあるが、悪い面について対応していきたいと思っている。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>犯罪に巻き込まれるのは付帯的に出てきた問題ではあるが、専門家からも指摘されているように、脳の細胞が活性化している時に脳を使わないと、脳の発達が退化していってしまうことを根本的な問題として捉えて欲しい。</p> <p>個人の問題ではなく、町でもスマートフォンの利用の問題に対して議論を深めていただき、スマートフォンの活用制限について考えていって欲しい。脳の発達時期の後戻りはできないし、臨界期を見過ぎすと、10の力で済むことが100の力を要することになってしまう。国民的な問題でもあるが、子育てを先進的に進めている二宮として、この問題に取り組んでいくことが大事だと思う。</p>
事務局	<p>ご意見を参考にさせていただき、幼児のスマートフォンの問題に対してどのように進めていけるか、今後も検討したいと思う。</p>
会長	<p>乳幼児はどんどん成長するので、乳幼児だけでなく、町全体で取り組む課題として、発信していくことは可能か。子ども・子育て支援事業計画の中ではITについて触れてなかったのが、スマートフォンの問題は実施事業としてあてはめにくい内容ではあるが、主要な担当課があって、他課も相当関わりのある内容でもあるので、各課で情報を共有し、この問題に取り組んでいってはどうか。</p>
事務局	<p>会議の内容は、これまでも庁内各課に必要な情報の共有をしているが、このスマートフォンの問題についても、教育総務課や生涯学習課など関連各課への情報発信をしていきたい。</p>
委員	<p>小学生の子どもが警察の配布した携帯犯罪のチラシを持ち帰って来たのだが、そのチラシの表紙に、いかがわしい描写で女性がシーツで体を隠しているのを犯罪者がニヤついているイラストが載っていた。小学生向けとは思えない、どぎついデザインのチラシなのに、学校で当たり前のように配布され、子ども達が普通に目にしていることに危機感を感じている。児童生徒に悪影響を及ぼしかねないので、児童生徒への配布物には十分に配慮して欲しいと思う。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>家族の問題の中でも、スマートフォンはその大半を占めている問題だと言える。極端に言えば、世界中からスマートフォンが使えなくなってしまった方が良いのではないかとも思ってしまうほどだ。もちろん、スマートフォンのおかげで救われている人もいらっしゃると思うが、スマートフォンがなくなったとしたら、今の子ども達はどれだけ自分で考えることをし始めるだろうか。</p> <p>今の子ども達は待ち合わせをするにも前もって決めず、直前になって場所や交通手段を調べて連絡を取り合うため、先を見通した計画的な行動をとるということをしなくなった気がする。答えは全て向こうからやって来てくれることが当たり前で、私たち大人が当たり前だと思っている感覚が今の子ども達にはない。自分の子どもなのに、考え方や感覚が違ってきているので、危機感を感じている。</p> <p>そんなふうに危機感を感じていても、一保護者としては発信力が全くないので、地域なり、世の中なりが、子どもが人間として形成をしていく上で備わっていたはずの、私たち大人が当たり前だと思っていたものが、だんだん消えてしまっていることへの危機感をもう少し取り上げて行って欲しいと思う。例えば、新聞の一角でもいいし、毎日毎日そのような問題点を目にする機会があれば、世の中意識も変わっていくのではないかと思う。実際、スマートフォンをつくっているのも大人なので、いろいろな弊害もあるのかもしれないが、やはり、子どもや子育てをしている世代の使い方が問題だと感じている。例えば、ファミレスで食事していても、父母がそれぞれスマートフォンの操作に夢中で、子ども達が黙って食事している場面をよく目にする。そのような保護者に育てられた子ども達がどのように育っていくのか、想像すると怖くなる。</p> <p>子どもの発達において切れ目なく発信できる立場にある方が、スマートフォンによる悪影響を少しでも早く発信していただけると、少しでも早く世の中が変わっていくのではないかと思う。</p>
事務局	<p>全国的な規模の内容にもなるが、小さい規模でも動かないと何も進みませんので、二宮町でもできることから取り組んでいきたいと考えている。</p>
会長	<p>まずは議論から始めていただいて、議論を始めたことで、悪影響の部分を共有することができるのではないかと思う。例えば小さい子どもがスマートフォンを触ることへの影響を発信していただけても議論になると思うので、是非実践していただきたい。</p>

発言者	発言要旨
副会長	<p>公園などで子どもと一緒にいるのに、保護者がスマートフォンに熱中して、子どもをほったらかしにしている光景をよく目にする。脳の発達を阻害する問題もあるが、スマートフォンの操作は大人でも難しいので、スマートフォンを使いこなす子どもの知能の発達をむげにはできないし、その恩恵なしではいけないこともあるが、犯罪の問題もあるし、会話が全くなくなってしまうとか、読書しなくなるとか、いろいろな弊害があるので、スマートフォンの活用モラルを議論する場が必要だと思う。</p>
会長	<p>やはり、スマートフォンの問題は今の時代に必要な課題ではないかと思う。</p>
委員	<p>図書館事業の充実について、若いお母さん方や年配の方々から相談されるのだが、以前は車に図書を乗せて運んでくれる移動図書館があつて、音楽を鳴らして移動図書館の車が到着すると、地域の子どもから高齢者までが集まって来て本を選んだりしてふれあいができた。新作図書ではなくても十分楽しめていた記憶がある。しかし、ラディアンに図書館が移転してからは、移動図書館がなくなってしまった。</p> <p>図書館事業の充実を掲げるのであれば、ラディアンの図書館まで1人では通えない子どもや高齢者のために、移動図書館の復活を要望したい。</p> <p>ラディアンで「おはなし会」があつても、行けない人もいる。また、小学校や保育園などで先生におはなしをしてもらう機会があつたとしても、自宅で「お母さんの膝の上ののって、本を読んでもらったことなんてない。」と平気で話す子どもが増えていて、スマートフォンなどの影響によって、家庭での活字離れやコミュニケーション不足の問題を感じる。移動図書館は地域に向いて図書にふれあう機会をつくるコミュニケーション手段の1つとしても検討して欲しい。</p>
会長	<p>ボランティア活動とも連携してできれば、可能性もあるのではないかと思う。ここでは施策を担当する課に委員の皆様方からいただいたご意見を伝える場にもなるので、ご意見として伺っておきたい。</p>
委員	<p>二宮の図書館は町のレベルではかなり充実しているとも言われているので、移動図書館の復活は、スマートフォンばかりの親御さんたちにも良い影響を与えるのではないかと考える。</p>
事務局	<p>町でも図書の大切さを重要視していて、「ブックスタート」という事業に取り組んでいる。4ヵ月健診の際に絵本をプレゼントして、おはなし会の方々により、赤ちゃんに本を読んだり、話しかけたりすることが赤ちゃんの脳の発達に違いが出ることなど、保護者が早いうちから読み聞かせを促す活動をしている。</p>
会長	<p>新制度の申請や奨励費助成について、保護者向けに説明をしていただいていると思うが、制度が大きく変わり、内容が良くわからないという声も聞かれる。新制度の通知方法など説明を丁寧にして、町民にとってわかりやすいものにしていただきたい。</p>

発言者	発言要旨
会長	<p>この子ども・子育て支援事業計画は0歳から11歳までの、おおむね小学生までの子どもを対象としているが、子どもは年々成長していく。子どもの健やかな育ちを推進していくためには、子どもとその親や先生たちとの間に年代の隙間があっては子どもが上手く育たなく、中高生や大学生などの中間世代の役割が大きい。そういう意味では、ラディアンのラウンジは、中高校生にとって良い居場所だったが、ITふれあい館がラディアンに移動してからは、中高生の居場所が少なくなってしまったので、そのような居場所を今後も残して欲しい。</p>
会長	<p>この計画の中にある、地域イベントへの積極的な参加を促す「中学生・高校生の活動や居場所づくり」やボランティア活動や職場体験などの「キャリア教育の推進」について、幼・保・小学校での中学生・高校生の職場体験受け入れでは、幼児・児童にとって上級生の姿は憧れであり、良い刺激となるので、積極的に計画事業の推進をしていただきたい。</p> <p>また、幼児・子育て関係の学科のある近隣の大学と提携して、ボランティアの受入れをして欲しい。</p>
会長	<p>県立高校の再編成が検討されており、県立二宮高校が対象になる可能性もある。町内のイベントに二宮高校生が出てきてくれることも多く、町内に小・中・高校施設が揃っているのと揃っていないのでは、子どもへの影響が違ってくる。県立二宮高校の存続を町としても要望して欲しい。</p>
(5) その他について	
会長	他にご意見はあるか。
委員	ない。
会長	なければ、議題は以上となる。ありがとうございました。
事務局	<p>皆様よりいただいたご意見は、今後の事業推進の参考とさせていただく。昨年度に比べて今年度より開催回数が減ったが、今年度は本日の1回の会議で、来年度は年1回、臨時議題があればもう1回の会議開催を予定しているので、ご協力をお願いしたい。ありがとうございました。</p>